

泊駅南公園 遊具上屋 建築工事

図 面 リ ス ト			
図 番	【 意 匠 】	図 番	【 構 造 】
A－01	建築特記仕様書 その1	S－01	構造特記仕様書
A－02	建築特記仕様書 その2	S－02	概要書
A－03	建築特記仕様書 その3	S－03	鉄筋コンクリート配筋標準図〔1〕
A－04	建築特記仕様書 その4	S－04	鉄筋コンクリート配筋標準図〔2〕
A－05	建築特記仕様書 その5	S－05	基礎伏図・基礎リスト・RC柱型
A－06	配置図・附近見取図・敷地面積求積図・求積図	S－06	小屋伏図
A－07	屋根伏図・平面図・立面図・断面図	S－07	軸組図 No.1
A－08	矩計図	S－08	軸組図 No.2
		S－09	鉄骨詳細図
		S－10	膜納まり詳細図

[illegible]

[illegible]

11
タイル工事

1
タイルの形状、寸法等

形状寸法
(mm)

再生材の
適用

吸水性による区分
Ⅰ類Ⅱ類Ⅲ類

うわぐすり
施釉無釉

役物
ありなし

色
標準特注

耐凍害性
ありなし

耐滑り性

・標準的な曲がりの役物は一体成形とする
・タイルの見本焼き ※行わない ・行う (※外壁タイル ・)
・タイルの試験張り ※行わない ・行う (※外壁タイル ・)

2
セメントモルタルによるタイル張り

モルタル塗りのコンクリート素地面の処理 ※MCR工法 ・目荒し工法 (高圧洗浄)
壁タイル張りの工法
外装タイル ・密着張り ・改良種上げ張り ・改良圧着張り
内装タイル ・密着張り ・改良種上げ張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り
・既製調合モルタル (モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
外装タイル接着剤張りにおける目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング
伸縮調整目地 ※変成シリコン系シーリング
その他の目地 ※変成シリコン系シーリング
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ・MCR工法 ・目荒し工法 (高圧洗浄)

12
木工事

1
製材

・「製材の日本農林規格」による製材

	樹種	寸法	等級	形状	含水率
・下地用針葉樹製材			※2級	・	※A種 ・B種
・造作用針葉樹製材					※A種 ・B種
・広葉樹製材			※1等	・	※10%以下

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率
・代用樹種を適用しない箇所 ()						※A種 ・B種

・代用樹種を適用しない箇所 ()

2
造作用集成材

造作用集成材、化粧ばり造作用集成材、化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法	見付け材面の等級	含水率
			※1等	・
				※A種 ・B種

・化粧加工 (・天然木・塗装) ・する ・しない

3
造作用単板積層材

施工箇所	厚さ	寸法	表面の品質	防虫処理
			・化粧加工 (・天然木・塗装) ・する ・しない	

4
直文集成板

施工箇所	品名	曲げ強度 (強度等級)	種別	接着性能	樹種	寸法 (mm)	間伐材等 の適用

5
合板等

普通合板、構造用合板、化粧ばり構造用合板、天然木化粧板、特殊加工化粧板、構造用パネル

種類	施工箇所	厚さ (mm)	接着の 程度	単板の 樹種名	板面の品質	等級
・普通合板			※1類 ・2類	・	・	・
・構造用合板			・1類 ※特類	・	・	・
・天然木化粧合板			・1類 ・2類	・	・	・
・			・	・	・	・

・バーテカルボード、MDF

種類	施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態 による区分	曲げ強さ による区分	接着剤に よる区分	難燃性 による区分

6
接合具等

造作材の化粧面の釘打ち
※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭隠し
諸金物
※図示 ・

7
接着剤

接着剤は可塑剤 (難揮発性の可塑剤を除く) が添付されていないものとする。
ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・

8
防虫・防蟻

・防虫、防蟻処理が必要な樹種による製材及び集成材 適用部位 ()
・薬剤の圧注入による防虫・防蟻処理 適用部位 () 保存処理性能区分 (・K2 ・K3 ・K4)
・薬剤の塗布等による防虫・防蟻処理 適用部位 ()
・ボード原料接着材への薬剤混入による防虫、防蟻処理 適用部位 ()

13
屋根及び
土工事

1
長尺金属板葺

屋根葺形式

	長尺金属板の種類	板厚 (mm)
・心木なし瓦葺葺 ・立平葺	※塗装ステンレス鋼板 ・SGL鋼板	※0.4
・蟻掛葺 ・横葺	・塗装溶融亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯	・

下葺材料 (・ 727mm×727mm 940 ・ 改質727mm×727mm 下葺材)
建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法
横葺きの場合のけらば納め ・つかみ込み納め ・けらば包み納め

2
折板葺

形 式	・重ね形 ※はげ締め形	・かん合形
形状 (mm)	山高 () 山ピッチ ()	板厚※0.6 ・0.8
材 料	※塗装溶融55%7Mn25Al-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯 (規格等) ・	
野上面戸板	※有り ・無し	
断 熱 材	※有り (種別:)	厚さ: (mm) ・無し
耐火性能	※30分耐火 ・無し	
建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 耐雪性能に適した工法 ・適用する ・適用しない 雪止め ・設置する (施工箇所 図示による ・) ・設置しない		

3
粘土瓦葺

形状による区分	寸法による区分	製法による区分	備 考
※S形	※53A	・ゆう葉がわら	色調 ()
・S形	・49A ・49B	・いぶしがわら	
・F形	・40	・無ゆうがわら	役物瓦 (図示)

建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法
JIS S2081に基づく凍害試験等様 ・行う ・行わない
※種質着色塩化ビニル管 (・VP ・RF-VP)
・配管用銅管
・表面処理鋼板 規格 () 裏面の塗装の種類 ()
・SGL鋼板

4
とい

14
金属工事

1
あと施工アンカー

引抜き耐力試験 ※適用する ・適用しない

2
アルミニウム及び
アルミニウム合金の
表面処理

種 別	色 合 い	施 工 箇 所
・AB-1種	無着色	
・AB-2種	・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー	
・		

3
鉄鋼の亜鉛めっき

表面処理方法	種 別	施 工 箇 所
溶融亜鉛めっき	・A種 ・B種 ・C種 ・D種	
電気亜鉛めっき	・E種 ・F種	

4
軽量鉄骨天井下地

屋根の場合の形式及び寸法 ※下表以外は、標仕14.4.3及び標仕14.4.2による

施 工 箇 所		下地材の間隔 (mm)	
		野縁受、吊りど、インサ 中央部	野 縁 周辺部

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法
天井下地材における耐震性・耐風圧性を考慮した補強 ・行う (補強箇所 ※図示)
天井のふところがい1.5m以上3.0m以下の場合の補強 ※標仕14.4.4(8) (7)及び(4)による ・図示
天井のふところがい3mを超える場合の補強 ※図示

5
金属成形板張り (天井)

形 状	製 法	板幅 (mm)	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面処理
・スパンのれり形 ・押出し					・BB-1種 ・BB-2種 (・フバー ・ブロンズ ・ブロンズ系 ・スパンカラー ・
・ロール					・
・パネル形 ※プレス					・AC-1種 ・AC-2種 (・フバー ・ブロンズ ・ブロンズ系 ・スパンカラー ・C種

※アルミニウム製

6
軽量鉄骨壁下地

取付用下地 ※標準仕様書による ・設ける (施工箇所は図示)
伸縮調整継手 ※設けない ・設ける (施工箇所は図示)
種類 ・50型 ・65型 ・90型 ・100型
スタットの高さが5mを超える場合 ※図示 ・

7
アルミニウム製笠木

オープン形式アルミニウム製笠木の種類

種 類	呼称肉厚 (mm)	表面処理及び色合い	固定間隔 ・ 方法
・100形	1.5以上	種別 () 種	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法
・250形	1.6以上	着色・フバー	
・300形	1.8以上	・ブロンズ ・ブロンズ系	
・350形	2.0以上	・スパンカラー	

隅角部及び突出部等の役物は笠木本体製造所の仕様による。

15
左
官
工
事

1
モルタル塗り材料

既製目地材の適用 ※図示

2
床コンクリートの
直均し仕上げ

下表以外は標仕表6.2.5及び標仕15.3.2による

施 工 箇 所	平たんさ (mm)	備 考
70-77mm77 (支柱調整式) 範囲	1mにつき10以下	

3
セルフレベリング材

・せっこう系 ・セメント系

4
ロックウール付け

5
仕上塗材仕上げ

種 類	呼 び 名	仕 上 げ の 形 状 等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材 S i ・可とう形外装薄塗材 S i ・外装薄塗材 E ・可とう形外装薄塗材 E ・防水形外装薄塗材 E ・外装薄塗材 S ・内装薄塗材 C ・内装薄塗材 L ・内装薄塗材 S i ・内装薄塗材 E ・内装薄塗材 W	・砂壁状 ・さざ波状 ・ゆず肌状 ・吹付け ・ローラー塗り) ・平垣状 ・凸凹状 (・吹付け ・こて塗り) ・着色骨材砂壁状 (・吹付け ・こて塗り) ・砂壁状じゅらく ・灰漿状じゅらく ・ ・ ・吸放湿性 ・適用する ・適用しない 上塗材 ・適用する ・適用しない
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材 C ・外装厚塗材 S i ・外装厚塗材 E ・内装厚塗材 C ・内装厚塗材 L ・内装厚塗材 G ・内装厚塗材 S i ・内装厚塗材 E	・吹散し ・凸凹処理 ・平垣状 ・凸凹状 ・ひき起こし ・かき落とし ・ ・吸放湿性 ・適用する ・適用しない 上塗材 ・適用する ・適用しない
・複層仕上塗材	・可とう形複層塗材 C E ・複層塗材 S i ・複層塗材 E ・複層塗材 R E ・防水形複層塗材 C E ・防水形複層塗材 E ・防水形複層塗材 L ・防水形複層塗材 E (透湿型) ・防水形複層塗材 R E ・ ・	・ゆず肌状 ・凸凹処理 ・凸凹状 ・ ・耐水性 ・1種 ・2種 ※3種 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ・ポリウレタン系 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック 防水形複層塗材 E (透湿型) を使用する場合の所要量 ※メーカー推奨塗布量による
・軽量骨材仕上塗材	・吹付け軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	砂壁状 平たん状

防火材料の指定 ※壁内の壁、天井の仕上り材は防火材料とする。

・高耐水性 砂壁状意匠性塗材

16
建
工
事

1
見本の製作等

・建具見本の製作 (建具番号:)
・特殊な建具の仮組 (建具番号:)
※防火戸の指定及び防犯建物部品の適用は、建具表による。

2
アルミニウム製建具

外部に面する建具の性能値等
種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 ・建具表による
特見込み (mm) ※建具表による (・ mm)
防音ドアセット、断熱ドアセット、耐震ドアセットの適用及び等級は、建具表による。
結露水の処理方法、水切り板、ぜん板等 ※図示

施工箇所	種 別	色 合 い 等
外部建具	※ BB-1種 ・ BB-2種 ・	無着色 ※標準色 (・ フバー ・ ブロンズ ・ ブラック ・ スパンカラー) ・
内部建具	※ AC-1種 ・ AC-2種 ・	無着色 ※標準色 (・ フバー ・ ブロンズ ・ ブラック ・ スパンカラー) ・

3
網戸

防虫網
※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製 (SUS316)

4
樹脂製建具

外部に面する建具の性能値等
種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 ・建具表による
特見込み (mm) ※建具表による (・ mm)
防音ドアセット、断熱ドアセット、耐震ドアセットの適用及び等級は、建具表による。
結露水の処理方法、水切り板、ぜん板等 ※図示
表面色 ※標準色 ・特注色 ()

5
鋼製建具

簡易気密型ドアセットの性能の適用は建具表による
外部に面する建具の耐風圧性 (・S-4 ・S-5 ・S-6)
鋼板の厚さ (1枚の戸の有効開口幅950mm、又は有効高さ2,400mmを超える場合)
鋼板

材 料	メッキ付着量	厚 さ
・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)	※Z12又はF12	・
・JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)	※Y08	・

※ 下表以外は標仕表16.4.2による

区 分	使 用 箇 所	厚 さ (mm)
窓	枠部 外部の下枠、水切り板	2.3
出入口	枠部 外部に面するスイングドアの建具	2.3
戸	中骨	2.3

6
鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの性能の適用は建具表による
鋼板 ※亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板
鋼板の厚さ ・標仕表16.5.1による。
召合せ、縦小口包み板の材質 ※鋼板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金

7
ステンレス製建具

簡易気密型ドアセットの性能の適用は建具表による
外部に面する建具の耐風圧性 (・S-4 ・S-5 ・S-6)
表面仕上げ ※HL仕上げ ・鏡面仕上げ
曲げ加工 ※ 普通曲げ ・角出し曲げ (補強あり)

8
木製建具

フラッシュ戸の表面材の種類 ※天然木化粧合板 ・
かまち戸の樹種 かまち () 鏡板 ()
ふすまの上張り (押入等の裏側以外) ※新鳥の子又はビニル紙程度 ・鳥の子
縁仕上 ・塗漆 ・生地縁 (・素地 ・ウレタンクリア塗装)
枠の材料 ※木製 ・鋼製
襖ずりの材料 ・木製 ・ステンレス製
防虫処理 ・行う

9
建具用金物

建具用金物は、下記以外については、建具表による。
マスターキー ※製作する ・製作しない
その他の鍵 ※各室3本1組
鍵箱 ※有り ・無し

10
自動ドア開閉装置

自動ドアの開閉機構
※スライディングドア ・スイングドア
自動ドアの開閉方式、質量、センサーの種類については、建具表による。
凍結防止措置 ※行わない ・行う ()

11
重量シャッター

外部に面するシャッターの耐風圧強度 耐風圧性能 () N/m2
開閉機能 ※上部電動式 (手動併用) ・上部手動式
防火シャッター、及び防煙シャッターには、危害防止機構を設ける。
シャッターケース ※設ける ・設けない
スラット及びシャッターケースのめっき付着量 ※Z12又はF12 ・

12
軽量シャッター

開閉形式 ※手動式 ・上部電動式 (手動併用)
外部に面するシャッターの耐風圧強度 耐風圧性能 () N/m2
スラット 厚さ (mm) ・0.5 ※0.8 ・1.0
形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形

13
オーバーヘッドドア

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバークラスチックタイプ	※バラン式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ・バーチカル形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板 (SUS304)

耐風圧性能 () N/m2

14
ガラス

ガラスの種類、品質、厚さ等は、建具表による

ガラス用材

建具の種類	材 種
アルミニウム製	※シーリング材 ・ ガスケット (F I X 部はシーリング材)
鋼製及び軽量鋼製	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材
樹脂製	※シーリング材 ・ ガスケット

ただし、防火戸は建築基準法に基づく規定に定められたもの又は認定を受けた条件による
板ガラスをはめ込む溝の大きさ
※建具製造所の仕様による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。
熱線反射ガラスの映像映像 ※行わない ・行う (建具表による)

15
ガラスブロック積み

ガラスブロック

寸法 (mm)	色 調	目地幅 (mm)	防火性能等
呼び寸法 厚さ		平積み 曲面積み	
・	※クリア	※8~15 外側 () ・ 15~25 内側 ()	※無し ・

伸縮調整目地 (mm) ※6mm以下ごとに10~25 ・図示
壁用金属枠及び補強材 ・設ける (形状及び材質等 ※図示) ・設けない
化粧目地モルタルの色 ※モルタル色
建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法
シーリング材の種類 (・SR-1 ・PS-1 ・)

16
ガラス用フィルム

種 類 記 号 日射調整 一張り面 性能値

種 類	記 号	日射調整	一張り面	性能値
・衝撃破壊対応対応ガラス飛散防止フィルム	・GI-1	・あり (・SG-1-A ・SG-1-B ・SG-1-C ・SG-1-D ・SG-1-E)	※内張り	
・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GD-1	・なし	※内張り	
・日射調整フィルム		・SG-1-A ・SG-1-B ・SG-1-C ・SG-1-D ・SG-1-E	※内張り	

品質 JIS A5759による

17
カー
テン
ウ
ォ
ー
ル
工
事

1
取付方法、性能等

耐震性、水密性、気密性、耐火性、耐温度差性、遮音性、断熱性等は図示による
建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法
層間変位追従性
建物の構造種別 層間変位量 (H=支点間距離) 変位後の状態
S造 ・ ± (1/200) ×h以上 部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが生じること。
RC及びSRC造 ・ ± (1/300) ×h以上 シーリングは補修程度の損傷であること。

2
メタルカーテン
ウォール

カーテンウォール材料の種類 規 格 等

種 類	規 格 等
※アルミニウム製	※標仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による
・	

カーテンウォール方式
・方立方式
・バックマリオン方式 (・単純2辺支持構法 ・SSG構法)
・スバンドレル方式
・パネル方式
・小型パネル組み合わせ方式 (・ノックダウン方式 ・ユニット方式)
シーリング材及びガラス取付け材料
下表以外は標仕表9.7.11による

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)

構造ガasket ※適用しない
・適用する (施工箇所:)
断熱材 ※適用しない
・適用する (種類、厚さ、施工箇所は、図示による)
製品の寸法許容差 ※標仕表17.2.1による
・製造所標準製作規定寸法許容差による

アルミニウムの表面処理

種 別	色合い等
・AB-1種 ・BB-1種	無着色
・AB-2種 ・BB-2種	※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー ・
・着色塗装 塗装材料 ()	焼付け方法 () コート () ベーク

3
P Cカーテンウォール

コンクリートの種類及び品質
※標仕17.3.2による
・下表による。ただし下表以外は標仕17.3.2による。

コンクリートの種類	設計基準強度 (F c)	所要スランプ (cm)

鉄筋 ※SD295A (・D13 ・D10) ・
補強鉄線の径 (mm) ※3.2 ・
配筋 ※図示 ・
取付け用金物の表面処理 (鉄の亜鉛めっき) 及び材質
下表以外はカーテンウォール製作所の仕様による

金物種類及び部位	内 部	外 部
P C版打込み金物	※E種	※A種 ・
P C版打込み取付けボルト	※E種	※ステンレスボルト
2次ファスナー	※E種	※A種 ・
取付けボルト	※E種	※A種 ・
レベル調整ボルト	※E種	※A種 ・
・		・

シーリング材料
下表以外は標仕表9.7.11による

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)
カーテンウォール板間目地	

耐火目地材 ※適用しない
・適用する (種類、施工箇所は図示による。)
※適用しない
・適用する (種類、厚さ、施工箇所は図示による。)
製品の寸法許容差 ※標仕表17.3.1による ・製造所標準製作規定寸法許容差による
表面仕上げ ()

朝日町 建設課

設計年月日

工事名称 泊駅南公園 遊具上屋 建築工事

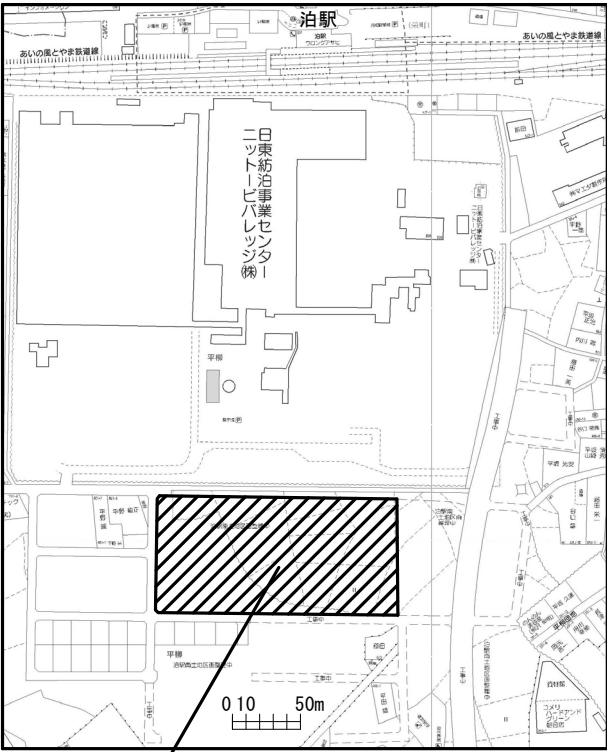
図面名称 建築特記仕様書 その3 縮 尺

図面番号 A-03

朝日町 建設課

A-04

22 舗装 工事	1 路床	路床の材料 <table><tr><th>種別</th><th>形 式</th><th>厚さ(mm)</th></tr><tr><td>・盛土</td><td>・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土</td><td>※図示 ・</td></tr><tr><td>・凍上抑制層</td><td>・再生クラッシャーラン ・クラッシャーラン ・切込砂利</td><td>※図示 ・</td></tr><tr><td>・フィルター層</td><td>・川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下)</td><td>※図示 ・</td></tr></table> 路床安定処理の適用 ※なし ・あり(※添加材による安定処理 ・) 種類 ・普通ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種 ・高炉セメントB種 ・生石灰() ・消石灰() ・固化材(・セメント系 ・石灰系) 添加量 kg/m3 (目標0.8 ※3以上) ・ジオテキスタイルによる安定処理 ・行う ・行わない ジオテキスタイルの品質 単位面積質量 ・60g/m2以上 ・ 厚さ(mm) ・0.5～1.0 ・ 引張り強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ・ 透水計数 ・1.5×10⁻¹ -1 cm/sec以上 ・	種別	形 式	厚さ(mm)	・盛土	・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	※図示 ・	・凍上抑制層	・再生クラッシャーラン ・クラッシャーラン ・切込砂利	※図示 ・	・フィルター層	・川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下)	※図示 ・	9 砂利敷き 10 区画線	・ 舗石舗装	<table><tr><th>種 類</th><th>厚 さ (mm)</th><th>施工方法</th><th>基 層</th></tr><tr><td>※小舗石 (花こう岩)</td><td>※80～100</td><td>※うろこ張り</td><td>※コンクリート舗装</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・アスファルト舗装</td></tr></table> 目地材 ※モルタル ・ <table><tr><th>区 分</th><th>種 類</th><th>厚さmm</th><th>備 考</th></tr><tr><td>クッション材</td><td>※砂 ・空練りモルタル</td><td>30</td><td></td></tr><tr><td>基層</td><td>・コンクリート版 ・再生粗粒度アスファルト混合物 (20)</td><td>70 50</td><td></td></tr></table> コンクリート版は、コンクリート舗装による。 加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による。 仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内 ・ A 種 ・ B 種 <table><tr><th colspan="7">路面表示用塗料</th></tr><tr><th>規格番号</th><th>種 類</th><th>施工時の条件</th><th>適用</th><th>寸法 (mm)</th><th colspan="2">色 彩</th></tr><tr><td rowspan="3">JIS K5665</td><td>・ 1 種</td><td>常温</td><td>液状</td><td>幅</td><td>※150</td><td>※白</td></tr><tr><td>・ 2 種</td><td>加熱</td><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・ 黄</td></tr><tr><td colspan="2">※3 種 1号</td><td>滑膩</td><td>粉体状</td><td>厚さ</td><td>※1.0</td></tr></table> 低揮発性有機溶剤型の路面表示用水性塗料	種 類	厚 さ (mm)	施工方法	基 層	※小舗石 (花こう岩)	※80～100	※うろこ張り	※コンクリート舗装	・	・	・	・アスファルト舗装	区 分	種 類	厚さmm	備 考	クッション材	※砂 ・空練りモルタル	30		基層	・コンクリート版 ・再生粗粒度アスファルト混合物 (20)	70 50		路面表示用塗料							規格番号	種 類	施工時の条件	適用	寸法 (mm)	色 彩		JIS K5665	・ 1 種	常温	液状	幅	※150	※白	・ 2 種	加熱		・	・	・ 黄	※3 種 1号		滑膩	粉体状	厚さ	※1.0	23 植 栽 工 事	1 植栽地の確認 2 樹木の植栽基盤整備	・土壌の水素イオン濃度試験(pH) ・行う ・行わない ・電気伝導度(EC)の試験 ・行う ・行わない	工法 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種 整備範囲 ※図示 ・葉張り部分 ・植栽部分 有効土層の深さ ※標仕23.2.1による ・ 土壌改良材 ※適用する() ・適用しない 植栽基盤の排水設備 ・設ける(※図示) ・設けない	※現場発生土の良質土 ・零土(※畑土 ・黒土)	※適用する (施工箇所 ※植栽範囲 ・図示) ・パーク堆肥 (使用料 ・50L/m3 ・ L/m3) ・汚泥発酵肥料(使用料 ・10L/m3 ・ L/m3) 材料「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植栽試験の調査の結果、害が認められないものとする	5 樹木 6 支柱	樹種、寸法、株立数等 ※図示 支柱材 ※丸太 ・丸太(間伐材) ・真竹 防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 ・ 形式 ※図示 ・	7 幹巻き用材料 8 芝	材料 ※幹巻き用テープ ・図示 種類 ※コウライシバ ・ノシバ 芝張りの工法 平地(※目地張り ・べた張り) 法面(※目地張り ・べた張り)	9 吹付けは種	<table><tr><th>種子の種類</th><th>発芽率</th><th>種子の量</th><th>備 考</th></tr><tr><td>※洋芝類 (採取後2年以内)</td><td>※発芽率80%以上</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td></td><td></td></tr></table>	種子の種類	発芽率	種子の量	備 考	※洋芝類 (採取後2年以内)	※発芽率80%以上	・	・	・	・			10 地被類	<table><tr><th>樹 種</th><th>コンテナ径</th><th>単位面積当たりのコンテナ数</th><th>備考</th></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	樹 種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	備考	・				・				11 新植、移植樹木、 芝等の枯補償	新植樹木(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)の枯補償の期間 ※引渡しの日から1年 ・無し 移植樹木の枯補償を行う期間 ※引渡しの日から1年 ・無し	12 屋上緑化	植栽基盤及び材料 <table><tr><th></th><th>土壌層の厚さ</th><th>保水・排水層</th><th>植込み用土</th><th>樹木、芝、地被類の種類、寸法、数量等</th></tr><tr><td>・屋上緑化システム</td><td>※図示</td><td>・軽量骨材(厚厚：)</td><td>※改良土</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・屋上緑化軽量システム</td><td>※図示</td><td>・板状成型品</td><td>・人工軽量土</td><td></td></tr></table> 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※図示 工法 風圧力に対応した固定工法 ※図示 支柱 ・設置する(種類 ・図示 ・) かん水装置 ・設置する(工事区分は図示による)		土壌層の厚さ	保水・排水層	植込み用土	樹木、芝、地被類の種類、寸法、数量等	・屋上緑化システム	※図示	・軽量骨材(厚厚：)	※改良土	※図示	・屋上緑化軽量システム	※図示	・板状成型品	・人工軽量土	
	種別	形 式	厚さ(mm)																																																																																																																																
	・盛土	・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	※図示 ・																																																																																																																																
	・凍上抑制層	・再生クラッシャーラン ・クラッシャーラン ・切込砂利	※図示 ・																																																																																																																																
	・フィルター層	・川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下)	※図示 ・																																																																																																																																
	種 類	厚 さ (mm)	施工方法	基 層																																																																																																																															
	※小舗石 (花こう岩)	※80～100	※うろこ張り	※コンクリート舗装																																																																																																																															
	・	・	・	・アスファルト舗装																																																																																																																															
	区 分	種 類	厚さmm	備 考																																																																																																																															
	クッション材	※砂 ・空練りモルタル	30																																																																																																																																
基層	・コンクリート版 ・再生粗粒度アスファルト混合物 (20)	70 50																																																																																																																																	
路面表示用塗料																																																																																																																																			
規格番号	種 類	施工時の条件	適用	寸法 (mm)	色 彩																																																																																																																														
JIS K5665	・ 1 種	常温	液状	幅	※150	※白																																																																																																																													
	・ 2 種	加熱		・	・	・ 黄																																																																																																																													
	※3 種 1号		滑膩	粉体状	厚さ	※1.0																																																																																																																													
種子の種類	発芽率	種子の量	備 考																																																																																																																																
※洋芝類 (採取後2年以内)	※発芽率80%以上	・	・																																																																																																																																
・	・																																																																																																																																		
樹 種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	備考																																																																																																																																
・																																																																																																																																			
・																																																																																																																																			
	土壌層の厚さ	保水・排水層	植込み用土	樹木、芝、地被類の種類、寸法、数量等																																																																																																																															
・屋上緑化システム	※図示	・軽量骨材(厚厚：)	※改良土	※図示																																																																																																																															
・屋上緑化軽量システム	※図示	・板状成型品	・人工軽量土																																																																																																																																
2 路床試験	・路床土の支持力比試験 ※行う (※乱した土 ・乱さない土) ・行わない ・路床締固め度の試験 ※行う ・行わない ・砂の粒度試験 ※行う ・行わない ・現場CBR試験 ・行う ・行わない ・安定処理土のCBR試験 ・行う ・行わない ・六価クロム溶出試験 ・行う ・行わない	3 路盤	材料 ・砕石 (・クラッシャーラン ・粒度調整砕石) ・再生材(・クラッシャーラン ・粒度調整砕石) ・クラッシャーラン鉄鋼スラグ ・粒度調整鉄鋼スラグ ・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ 厚さ ※図示による 路盤の締め固め試験 ※行う ・行わない	4 アスファルト舗装	・アスファルト舗装(表層及び基層の厚さは図示による) 材料 アスファルト ※再生アスファルト ・ストレータアスファルト 骨材 ※道路用砕石 ・アスファルトコンクリート再生骨材 配合(加熱アスファルト混合物の種類) <table><tr><th>区分</th><th>地 域</th><th>種 類</th></tr><tr><td rowspan="2">表層</td><td>※一般地域</td><td>※密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)</td></tr><tr><td>・寒冷地域</td><td>※密粒度アスファルト混合物(13F) ・細粒度ギャップアスファルト混合物(13F)</td></tr></table> シールコート ※行わない ・行う(施工範囲：) アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない ・行う	区分	地 域	種 類	表層	※一般地域	※密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)	・寒冷地域	※密粒度アスファルト混合物(13F) ・細粒度ギャップアスファルト混合物(13F)	5 コンクリート舗装	舗装の構成及び厚さ ※図示 ・ 材料 コンクリート ※標仕表22.5.1による ・ 早強セメント ※使用しない ・使用する 注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ コンクリート版厚さの試験 ※行わない ・行う	6 カラー舗装	・カラー舗装(表層及び基層の厚さは図示による) <table><tr><th>舗装の種類</th><th>部 位</th><th>車道部の基層</th></tr><tr><td>※加熱系</td><td>・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物</td><td>・車道部 ・歩道部</td><td>※無し ・有り</td></tr><tr><td>・常温系</td><td>・</td><td>・</td><td>※無し ・有り</td></tr></table> 常温系カラー舗装の着色部の下部 ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装 材料 加熱系混合物に添加する材料 ・着色骨材() ・自然石() 配合 結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量 樹脂系混合物 ・ニート工法及び塗布工法の配合等 ・	舗装の種類	部 位	車道部の基層	※加熱系	・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物	・車道部 ・歩道部	※無し ・有り	・常温系	・	・	※無し ・有り	7 透水性及び排水性 アスファルト舗装	・透水性アスファルト舗装(表層及び基層の厚さは図示による) ・排水性アスファルト舗装(表層及び基層の厚さは図示による) <table><tr><th>区分</th><th>種 類</th><th>材 料</th></tr><tr><td>表層</td><td>・排水性舗装用アスファルト混合物</td><td>・S・リマ-改質7.7.2.1.2 II型 ・</td></tr><tr><td>基層</td><td>・加熱アスファルト混合物等(密粒アスファルト混合物)</td><td>・再生アスファルト ・ストレータアスファルト</td></tr></table> 舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない	区分	種 類	材 料	表層	・排水性舗装用アスファルト混合物	・S・リマ-改質7.7.2.1.2 II型 ・	基層	・加熱アスファルト混合物等(密粒アスファルト混合物)	・再生アスファルト ・ストレータアスファルト	8 ブロック系舗装	・コンクリート平板舗装 <table><tr><th>種 類</th><th>寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>目地材</th><th>表面加工</th></tr><tr><td>※普通平板 (N)</td><td>※300角</td><td>※60</td><td>※砂</td><td>・研ぎ出し</td></tr><tr><td>・透水平板 (P)</td><td>・</td><td>・</td><td>・モルタル</td><td>・洗い出し ・たたき出し</td></tr></table> クッション材 ・砂 ・空練りモルタル ・30 仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内 ・インターロッキングブロック舗装 <table><tr><th>種 類</th><th>施工箇所</th><th>曲げ強度</th><th>厚さ(mm)</th><th>横断面勾配</th><th>表面加工及び色彩等</th></tr><tr><td>※普通タイプ</td><td>※車道部</td><td>5N/mm2以上</td><td>80</td><td>2%</td><td>※標準タイプ</td></tr><tr><td>・誘導、注意喚起用タイプ</td><td>※歩道部</td><td>3N/mm2以上</td><td>60</td><td>1.5～2%</td><td>・表面化粧タイプ</td></tr><tr><td>・透水性タイプ</td><td>・</td><td>・</td><td>・100</td><td>・</td><td>・誘導、注意喚起用は黄色とする</td></tr><tr><td>・保水性タイプ</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・植生タイプ</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table> 目地材 ※砂 <table><tr><th>区 分</th><th>部 位</th><th>厚さmm</th><th>種 類</th></tr><tr><td rowspan="2">クッション材</td><td>・車路、駐車場</td><td>20</td><td rowspan="2">砂</td></tr><tr><td>・歩行者用通路</td><td>30</td></tr><tr><td>フィルター層</td><td>・</td><td>100</td><td>川砂、海砂又は良質な山砂 (75μmふるい通過量6%以下)</td></tr></table> ・ジオテキスタイルの敷設位置 ※図示 ・敷砂層と路盤の間 ・フィルター層と路床の間 ・ジオテキスタイルの敷設位置 ジオテキスタイルの品質 単位面積質量 ・60g/m2以上 ・ 厚さ(mm) ・0.5～1.0 ・ 引張り強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ・ 透水計数 ・1.5×10 ⁻¹ -1 cm/sec以上 ・ 舗装の割付 ・ヘリンボンプوند (・45° ・90°) 仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	表面加工	※普通平板 (N)	※300角	※60	※砂	・研ぎ出し	・透水平板 (P)	・	・	・モルタル	・洗い出し ・たたき出し	種 類	施工箇所	曲げ強度	厚さ(mm)	横断面勾配	表面加工及び色彩等	※普通タイプ	※車道部	5N/mm2以上	80	2%	※標準タイプ	・誘導、注意喚起用タイプ	※歩道部	3N/mm2以上	60	1.5～2%	・表面化粧タイプ	・透水性タイプ	・	・	・100	・	・誘導、注意喚起用は黄色とする	・保水性タイプ	・	・	・	・	・	・植生タイプ	・	・	・	・	・	区 分	部 位	厚さmm	種 類	クッション材	・車路、駐車場	20	砂	・歩行者用通路	30	フィルター層	・	100	川砂、海砂又は良質な山砂 (75μmふるい通過量6%以下)																									
区分	地 域	種 類																																																																																																																																	
表層	※一般地域	※密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)																																																																																																																																	
	・寒冷地域	※密粒度アスファルト混合物(13F) ・細粒度ギャップアスファルト混合物(13F)																																																																																																																																	
舗装の種類	部 位	車道部の基層																																																																																																																																	
※加熱系	・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物	・車道部 ・歩道部	※無し ・有り																																																																																																																																
・常温系	・	・	※無し ・有り																																																																																																																																
区分	種 類	材 料																																																																																																																																	
表層	・排水性舗装用アスファルト混合物	・S・リマ-改質7.7.2.1.2 II型 ・																																																																																																																																	
基層	・加熱アスファルト混合物等(密粒アスファルト混合物)	・再生アスファルト ・ストレータアスファルト																																																																																																																																	
種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	表面加工																																																																																																																															
※普通平板 (N)	※300角	※60	※砂	・研ぎ出し																																																																																																																															
・透水平板 (P)	・	・	・モルタル	・洗い出し ・たたき出し																																																																																																																															
種 類	施工箇所	曲げ強度	厚さ(mm)	横断面勾配	表面加工及び色彩等																																																																																																																														
※普通タイプ	※車道部	5N/mm2以上	80	2%	※標準タイプ																																																																																																																														
・誘導、注意喚起用タイプ	※歩道部	3N/mm2以上	60	1.5～2%	・表面化粧タイプ																																																																																																																														
・透水性タイプ	・	・	・100	・	・誘導、注意喚起用は黄色とする																																																																																																																														
・保水性タイプ	・	・	・	・	・																																																																																																																														
・植生タイプ	・	・	・	・	・																																																																																																																														
区 分	部 位	厚さmm	種 類																																																																																																																																
クッション材	・車路、駐車場	20	砂																																																																																																																																
	・歩行者用通路	30																																																																																																																																	
フィルター層	・	100	川砂、海砂又は良質な山砂 (75μmふるい通過量6%以下)																																																																																																																																
朝日町 建設課	設計年月日	工事名称 治駅南公園 遊具上屋 建築工事	図面名称 建築特記仕様書 その5	図面番号 A-05																																																																																																																															

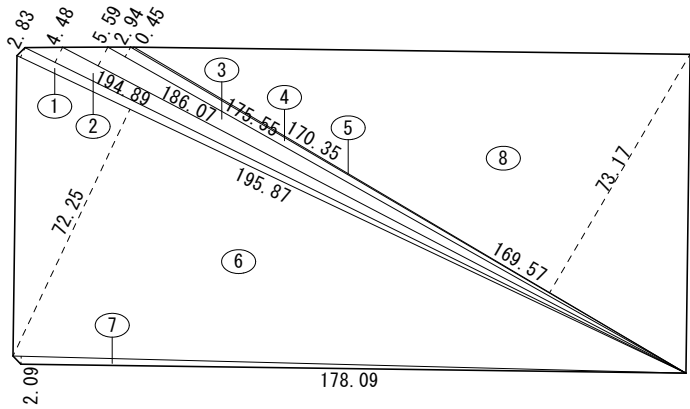


建築場所：富山県下新川郡朝日町平柳字中田473 他26筆

附近見取図

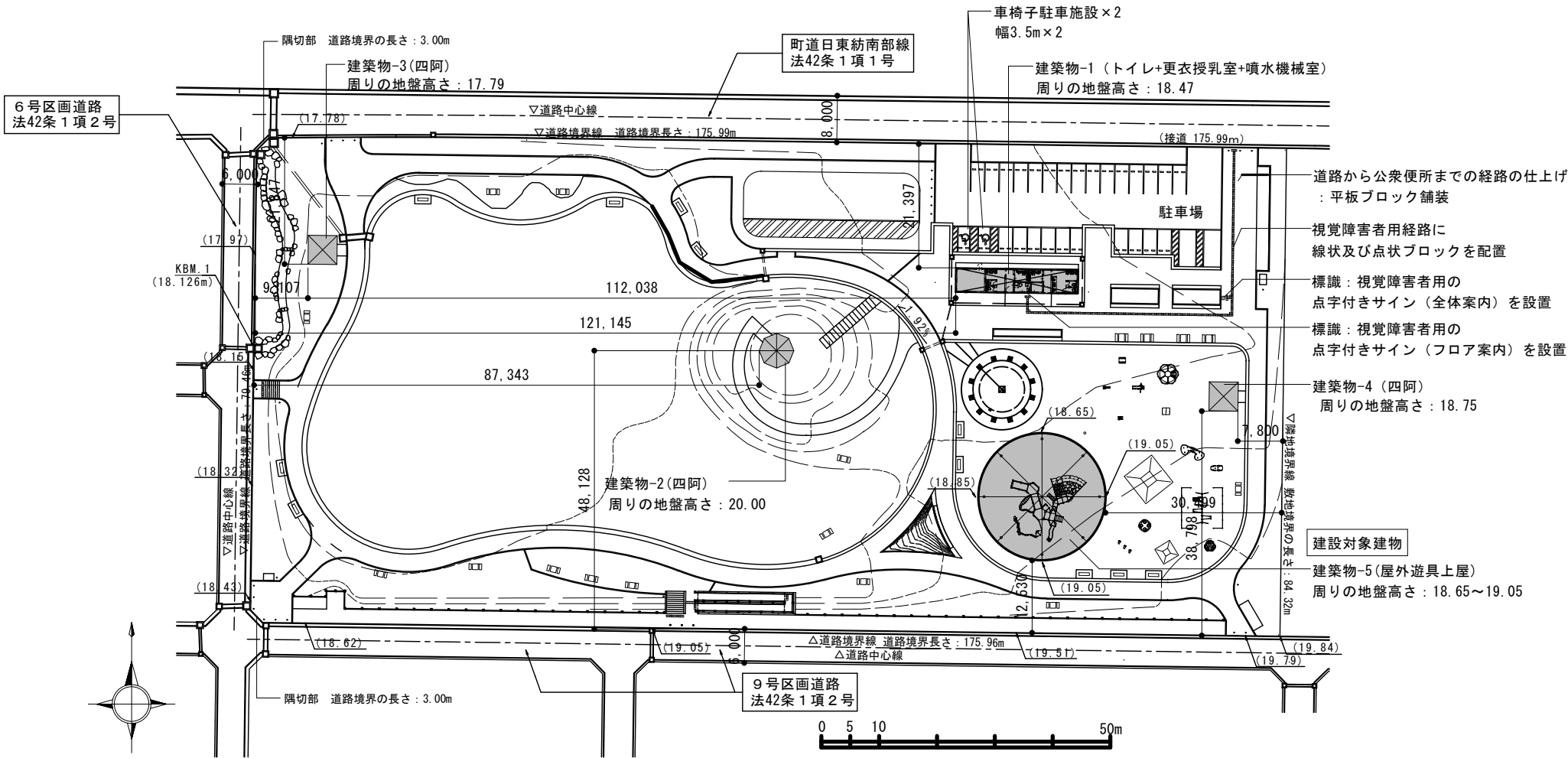
【設計概要】

地名地番	富山県下新川郡朝日町平柳字中田473 他26筆 (都市構造再編集集中支援事業において基幹事業として定められた公園)
防火の指定	指定なし
用途地域	第一種住居地域
容積率	200 %
建ぺい率	70 % (朝日町都市公園条例においては 4 %以下)
その他の指定	指定なし
主要用途	屋外遊具上屋
構造規模	鉄骨造平家建
塩害	塩害のおそれのある地域 (海から約1.5km)

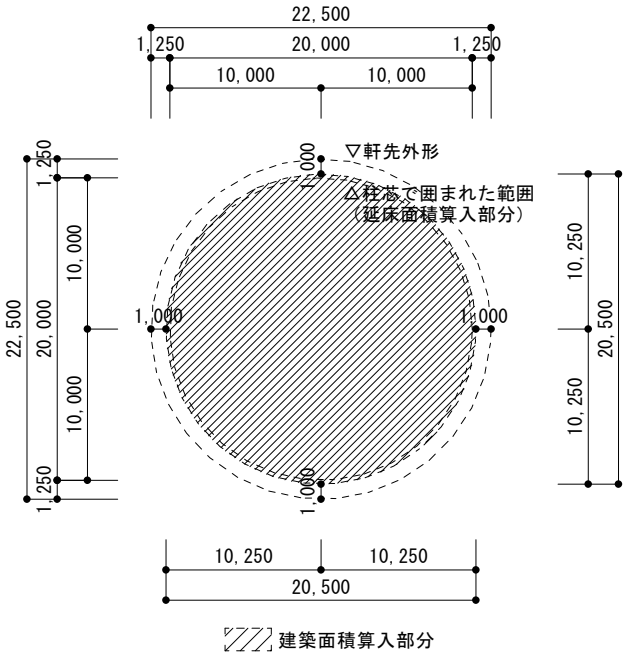


敷地面積求積図 A3 1/2000

番号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積
1	195.87	2.83	554.3121	277.15605
2	194.89	4.48	873.1072	436.55360
3	186.07	5.59	1,040.1313	520.06565
4	175.55	2.94	516.1170	258.05850
5	170.35	0.45	76.6575	38.32875
6	195.87	72.25	14,151.6075	7,075.80375
7	178.09	2.09	372.2081	186.10405
8	169.57	73.17	12,407.4369	6,203.71845
合 計				14,995.78880
敷 地 面 積				14,995.78 m ²



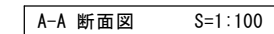
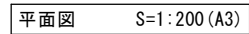
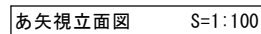
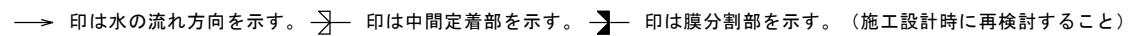
配置図 A3 1/1000

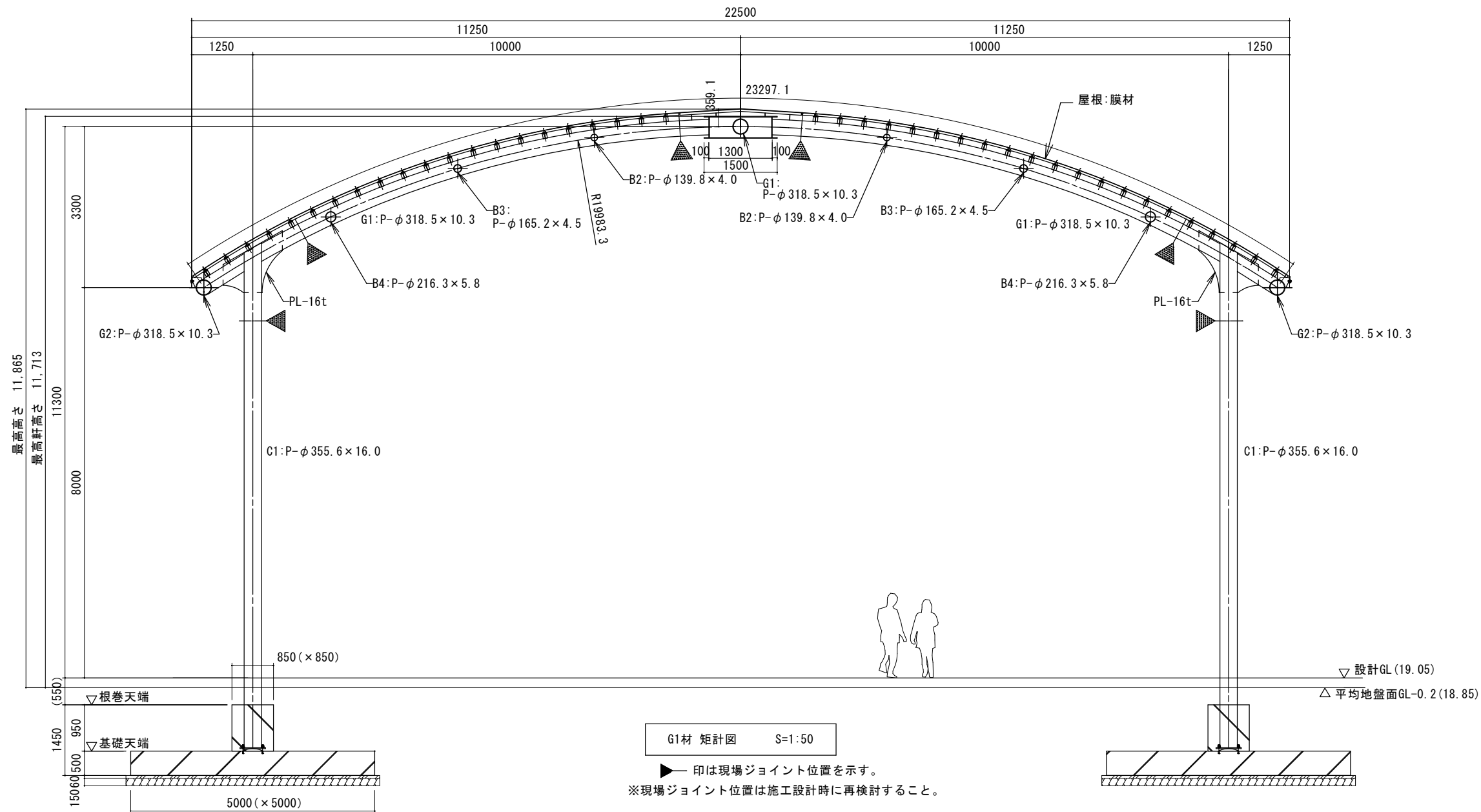


求積表

名称	部屋名	計算式	面積	
遊具上屋	延べ床面積	10.00×10.00×3.14	314.00㎡	容積率2.09%
	建築面積	10.25×10.25×3.14	329.89㎡	建蔽率2.19%

求積図 A3 1/500





構造設計標準仕様

適用は■印を記入する。

1. 共通事項

- (1) 図面および本特記仕様書に記載されていない事項は、下記の図書による。
- 建築工事標準仕様書 最新版（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
 - 建築工事標準仕様書・解説（日本建築学会）JASS1 一般共通事項（2002）
 - JASS3 土工事および山留め工事（2022）
 - JASS4 杭および基礎スラブ工事（2022）
 - JASS5 鉄筋コンクリート工事（2022）
 - JASS6 鉄骨工事（2018）
3. 鉄筋コンクリート造配筋指針・解説（日本建築学会）（2021）
4. 鉄骨工事技術指針（日本建築学会）（2018）
- (2) 特記仕様は■印のついたものを適用する。
- (3) 設計図書優先順位は次の通りとする。
- 質疑回答書
 - 特記仕様書
 - 設計図
 - 各標準図
 - 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 建築工事標準仕様書

2. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 泊駅南公園 遊具上屋 建築工事
- 建築場所 富山県下新川郡朝日町平柳 地内
- (2) 工事種別 ■新築 □増築（別棟） □増改築 □改築
- (3) 構造種別 ■鉄骨造（S）
□鉄筋コンクリート造（RC）
□鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）
□プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）
- (4) 階数 地下 - 階 地上 1 階 塔屋 - 階
地下 階 地上 階 塔屋 階
地下 階 地上 階 塔屋 階
- (5) 主要用途 屋外遊具上屋
- (6) 屋上付属物
□高業水塔 □空調屋外機 □キュービクル □広告塔 □煙突 □ソーラーパネル
- (7) 特別な荷重
□エレベータ □リフト □ホイスト
□倉庫積載床用 □受水塔 □防火水塔 □大型トラック
- (8) 付帯工事
□門衛 □塙壁 □屋外階段
- (9) 増築計画 □有（ ） □無
- (10) 構造計算ルート . X方向ルート -() Y方向ルート -()

3. 使用構造材料

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c N/mm ²	構造体強度補正値 S N/mm ²	スランプ c _m	備考
捨コンクリート	■普通	18	□考慮	15	
基礎部	■普通	24	■考慮	15	
地上部	□普通	24	□考慮	18	
土間コンクリート	□普通	24	□考慮	15	
嵩上コンクリート	□普通 □軽量	18	□考慮	15	

セメントの種類	コンクリート打込みから材齢28日までの 予想平均気温θの範囲（℃）		
普通ポルトランドセメント 混合セメントA種	8 ≤ θ	0 ≤ θ < 8	2.5 < θ
早強ポルトランドセメント	5 ≤ θ	0 ≤ θ < 5	2.5 < θ
中速熱ポルトランドセメント	1.1 ≤ θ	0 ≤ θ < 1.1	—
低熱ポルトランドセメント	1.4 ≤ θ	0 ≤ θ < 1.4	—
高炉セメントB種	1.3 ≤ θ	0 ≤ θ < 1.3	—
フライアッシュセメントB種	9 ≤ θ	0 ≤ θ < 9	2.5 < θ
構造体強度補正値：S	3	6	6

調合管理強度＝設計基準強度＋構造体強度補正値

(2) コンクリートブロック（CB）

□A種 □B種 □C種 厚□100 □120 □150 □190

(3) 鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	□SD295A	D10～D16	スラブ・梁・柱・基礎	□重ね継手
	□SD345	D19～D25	柱	
	□SD390	D28～D32		□ガス圧接継手 D19以上
	□			
高強度せん断補強筋	□SBPD1275/1420			□特殊継手 ()
丸 鋼	□SR235			
溶接金網(JIS G 3551)	□SR235			

(4) 鉄骨

種 類	使用箇所	現場溶接	備 考
■SS400 □SM400 □SN400A、B、C		□有 □無	
■STK400 □STKR400 □STK490		□有 □無	
□BCR295 □BCP325 □		□有 □無	
□SM490A ■SN490B □		□有 □無	
□SSC400 □ □		□有 □無	
□ - □		□有 □無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

(5) ボルト

- 高力ボルト
□普通：F10T □特殊：S10T 認定品 ■普通：F8T（溶融亜鉛メッキ部）
- 中ボルト M12 高力ボルトすべり係数試験 □要 □否
M 高力ボルト導入強力確認試験 □要 □否
- アンカーボルト ※図面特記による

□露出柱脚（認定取得既製品） ※図面特記による

□頭付スタッド ※図面特記による

4. 地 盤

- (1) 地盤調査
■有（■敷地内 □近隣） □スリウ・カット貫入試験 □平板載荷試験 □水平地盤反力係数の測定
□液状化判定 □現場透水試験 □土質試験
□無（調査予定 □有 □無）
- (2) 地盤調査計画
□ボーリング調査 □静的貫入試験 □標準貫入試験 □水平地盤反力係数の測定
□土質試験 □物理調査 □平板載荷試験
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング柱状図

深 度	土質	N 値	標準貫入試験					
			10	20	30	40	50	60
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								

5. 地業工事

* 設計図書の特記による。

- (1) 直接基礎
□ベタ基礎 □布基礎 ■独立基礎 試験掘 □有 □無
- 長期許容支持力度 50 kN/m² 載荷試験 □有 ■無
- (2) 基礎杭 支持層—

杭 種	材 料	施工法	備考
□RC □PC □PHC □H鋼 □鋼管 □摩擦杭 □SC □PRC	PC（□A種 □B種 □C種） PHC（□A種 □B種 □C種） 鋼材 □SS400 □SKK490 HC-10P（□A種 □B種 □C種）	□打ち込み □埋込み（セメントミルク工法） □プレボーリング拡大掘削 □	
□場所打ち コンクリート杭	コンクリート スランプ セメント量 鉄筋	□オールケーシング（ベント工法・全費掘削工法） □リバースサーキュレーション □旋回杭 □アースドリル（振込部） □ミニアース □BH □深掘 □手掘 □機械掘	日本建築センター認定 第 号 年 月 日

杭仕様 □施工計画書承認 □杭施工結果報告書

試験杭（□有 □無）（□打ち込み □載荷） - 本

杭径 [mm]	設計支持力 [kN]	杭の先端の深さ [m]	本数	特記事項

杭芯施工誤差の考慮 □有 許容値 100mm □無
※杭芯施工誤差については、計測後工事監理者および構造設計者の承認を得ること

6. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

- コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。
- セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
- 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
- 1回の試験の供試体数は、調合管理強度の管理試験用、構造体コンクリートの材齢28日圧縮強度推定用、型枠取り外し時期決定用、構造体コンクリートの材齢28を超え91日以内の圧縮強度推定用その他必要に応じて、それぞれ3個とする。
- 1回に採取する供試体は、適切な間隔をあげた運搬車から3度に分けて試料を採取し、必要な数の供試体を作製する。ただし、調合管理強度の管理試験用は、1台の運搬車の試料から3個の供試体を作製する。
- 標準養生の場合は、20±2℃の水中養生とする。また、工事現場における養生は水中養生または封かん養生とする。
- ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
- コンクリートの乾燥収縮率は8×10⁻⁴以下とする。

(2) 鉄 筋

- 鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5による。
- 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1号適合品とする。
- 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さ「鉄筋コンクリート構造配筋基準」または「型式鉄筋コンクリート構造配筋基準」による。
- D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
- ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えるときは、200箇所ごと）に1回行い、1回試験は5本以上とする。
- 外観検査 □有 □無、引張試験 □有 □無、超音波深傷試験 □有 □無
- 柱の帯筋（H O O P）の加工方法は、 □H型（タガ型） □W型（溶接型）
□S型（スパイラルル型）とする。
-

(3) 型 枠

- 材料 合板厚 12mmを標準とする。 ■施工はJASS5による。

■型枠存置期間

種類 部材	せ き 板				支 柱		
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下		
セメントの埋め 圧入時の気温	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強度ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
	2	3	4	6	8	17	28
	3	5	6	10	12	25	28
	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの 圧縮強度	5.0N/cm ²				設計基準強度の50%		
					設計基準強度の85%		100%

- 注）1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
- 注）2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他ののはりの場合も原則として行わない。
- 注）3 支柱の盛りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。
- 注）4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注）5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
- 一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注）6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

□コンクリート打放し仕上げ

打放し仕上げ種別 □A種 □B種 □C種

注）打放し仕上げ部位は意匠図面による。

7. 鉄骨工事

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による

- 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
- 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
-

（2） 工事管理者の承認を必要とするもの

- 制作工場 ■製作要領書 ■工作図 ■施工計画書
- 認定または登録工場（国土交通省大臣認定工場 Mグレード以上）
- 材料規格証明書または試験成績書
- 鋼材 ■高力ボルト □特殊ボルト □頭付スタッド

□社内検査表 □

（3）工事監理者が行う検査項目

- （印以外の項目の検査結果については、工事管理者に報告すること）
- 現寸検査 ■組立・開先検査 ■製品検査
- 建方検査 □ □

（4） 接合部の溶接は下記によること

- 東京都アーク溶接工事管理基準（建築構造設計指針第12章）
- 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第12章）
- 日本建築学会「溶接工作基準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、IX」
- 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

（5） 接合部の検査

■溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		社内	第三者	工事管理者	
□ 突合せ溶接部	超音波深傷試験	100 %	%	%	□ A0QLと各検査水準 A0QLは4.0%、 検査水準は第6水準 とする。
□	外観（目視）検査	100 %	100 %	100 %	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事管理者又は工事施工者が、受入検査を 代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注）現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

注）現場溶接部は、超音波深傷試験を100%行う事。

- 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。
- （6）防錆塗装
- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5674、2回塗りを標準とする。
- 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は急に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。
- 部材は溶融亜鉛メッキ処理とする（HTBはメッキボルトを使用する）

（7）耐火被覆の材料

□建築図面による

8. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1／3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ50cm以上を原則とする。

9. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を撮影保管すること。

施工上特に注意すべき事項

- 密実に充填するための打ち込み及び締め固めの方法はJIS S 8610コンクリート棒型振動機を使用し、密実に充填する。
- 打ち継ぎ部の処理方法は打ち継ぎ面を鉄筋と垂直にする。構造部材の低力低下が少なく、かつ打ち継ぎ部の処理が円滑に行える形状とする。打ち継ぎ部の鉄筋は連続していること。養生方法はJASS5による。
- 躯体施工図作成に先立ち配筋納まり図を作成し、工事監理者の承認を得ること。

膜構造建築物 設計概要書									
鉄骨工事	構造用鋼材 種類・材質	一般構造用鋼材 ●SS400 [鋼板・平鋼・形鋼] ●STK400 ○STKR400 ●STK490 [炭素鋼鋼管] ○STKR490 [角形鋼管] ○SSC400 [軽量形鋼] ○その他 ()				建築構造用鋼材 ○SN400A ○SN400B ○SN400C ○SN490A ●SN490B ○SN490C			
		溶接構造用鋼材 ○SM490A ○その他 ()							
	高力ボルト	○F10T (S10T) ●F8T (溶融亜鉛めっき高力ボルト)							
		* 摩擦接合では鉄骨の摩擦面の処理に注意する。 摩擦面のすべり係数を0.45以上 (溶融亜鉛めっきされた鉄骨の場合は0.40以上) 確保するため、「プラスト処理・特殊塗料塗布、他」を行なう。							
	中ボルト	●JIS規格品 (SW付き) ○その他()							
アンカーボルト	●SNR400B ○SNR490B ○その他()								
膜定着ボルト 取り付け方法	○溶接仕様 ○打ち込み仕様 打ち込む				○ネジ込み仕様 ネジ込む ●現場取付け仕様 ○その他()				
溶接	隅肉溶接のサイズ t 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 S 3 4 5 5 6 7 8 8 9 10 10 11 12 t 19 22 25 28 30 32 36 40 S 11 13 15 17 18 19 21 24 1 (片面溶接) t ≤ 16 2 (両面溶接) t ≤ 16 16 < t ≤ 32				(単位: mm)				
鋼管の溶接	一部突合せ一部隅肉溶接 適用条件 交角 θ ≥ 30° 管径比 d/D ≤ 1 d: 支管外径 D: 主管外径								
	位置	図	適用管厚	溶接姿勢	寸 法				
	X 部		2	F H V O	ψ	90° ≤ ψ ≤ 120°	120° < ψ ≤ 150°		
T/e					≥ 1.4T	≥ T			
G					0				
α					≥ 45°				
S					≤ 2T				
	Y 部		12	F H V O	ψ	90° ≤ ψ ≤ 120°	ψ > 120°		
T/e					≥ 1.4T	≥ T			
G					0				
α					≥ 45°				
S					≤ 2T				
	Z 部			F H V O	ψ	30° ≤ ψ ≤ 90°			
T/e					≥ 1.4T				
G					0				
α					≥ 45°				
S					≤ 2T				
朝日町 建設課									

塗装工事	溶融亜鉛メッキの上、2液形ポリウレタンエナメル塗り				
	工 程	塗 料 名	塗布量 (kg/m ²)	塗装方法	施工 区分
	1 素地調整	リン酸塩 もしくは スイープブラスト	0.14	吹付・はけ	工場
	2 下塗り (1回目)	変性エポキシ樹脂プライマー J A S S 1 8 M - 1 0 9			
	3 下塗り (2回目)	エポキシ樹脂雲母状酸化鉄塗料 (M I O)	0.14	吹付・はけ	現場
4 中塗り	鋼構造物用耐候性塗料 J I S K 5 6 5 9 (中塗り塗料)	0.14	はけ・吹付		
5 上塗り	鋼構造物用耐候性塗料 J I S K 5 6 5 9 (上塗り塗料3級)	0.10	はけ・吹付		
	※現場損傷部 素地調整	2種ケレン (サンダー等) ／ I S O S t 3	0.25	(×2回)	
	下塗り (1,2回目)	常温亜鉛メッキ (上塗り対応エポキシ系)			
	下塗り (3回目)	変性エポキシ樹脂プライマー J A S S 1 8 M - 1 0 9	0.14		
	注意事項 上塗塗料の J I S 規格 (相当品) は 光沢品を規定している為、 艶調整を行う場合は J I S 規格 (相当品) に該当しなくなります。				
	各部塗装範囲				

膜工事	膜材料	国土交通省告示第666号第二、2、二の表の (一) に適合する膜材料:	
	膜材料	AP-450 酸化チタン光触媒微粒子含有 (両面)	認定番号 MMEM-0081-1 不燃認定 NM-4723
	※膜構造建築物の品質管理については、令和5年発効「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜構造建築物品質管理規定」に従い行うこと。 ※膜材料は令和5年発行「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜材料等品質基準」に合致するものであること。 ※一般社団法人日本膜構造協会第1種正会員であること。 ※膜体加工は一般社団法人日本膜構造協会の膜体加工工場登録制度により、膜構造に係る高度な加工技術及び高度な品質管理能力を有する膜体加工認定工場として認定を受け、同協会の (膜体加工工場認定簿 (上級グレード)) に記載された工場 (A種膜材料) の品質管理体制で行うこと。 ※膜体加工は令和5年発行「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜体加工指針 (膜材料・テント倉庫膜材料)」に従い行うこと。 ※膜材料を製品使用後に引き取り、リサイクルされる仕組みを整えていること。 ※酸化チタン光触媒の効果は、光触媒工業会のPIAJ認証マーク取得商品、または同等以上の性能を有すること。		
	膜体加工	* 一般社団法人日本膜構造協会第1種正会員であること * 一般社団法人日本膜構造協会の膜体加工工場認定制度に登録された自社工場 (全ての膜材料を加工する工場) で加工すること * I S O 9001を導入している企業とすること * 膜材料を製品使用後に引き取り、リサイクルされる仕組みを整えていること *一般社団法人日本公園施設業協会の「遊具の安全に関する規程JPFA-SP-S: 2014」に基づき、「S P 表示認定企業」による設計・製造・施工とすること *一般社団法人日本公園施設業協会認定の公園施設製品安全管理士及び公園施設製品整備士を有すること *一般社団法人日本公園施設業協会の「団体賠償責任保険」に加入していること	
	膜材溶着部	国土交通省告示第666号第二第五項第一号二に規定する接合とする FEPフィルムを介在した熱板溶着接合。 溶着巾 ● 75mm ○ 50mm ○ 37.5mm 	
膜定着部	国土交通省告示第666号第三第一項第一号イに規定する定着方法とする 1. 膜定着プレート * 膜材は、膜定着プレート又はファスナーでクランプする。 膜定着プレート: アルミ押し出し型材又はアルミプレート (A-6061S-T6) アルマイト9μ、クリア7μ仕上 ファスナー: アルミ押し出し型材 (A-6061S-T6) アルマイト9μ、クリア7μ仕上 		
	2. 膜定着ボルト ボルト径 ● M12 ● M10 材質 ○ S U S 304 ● S U S 316 ○ 溶融亜鉛めっき ○ ユニクロめっき		
	設計年月日	工事名称 治駅南公園 遊具上屋 建築工事	図面番号 S-02
		図面名称 概要書	縮 尺 -

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 [1]

1. 共通事項

A. 適用範囲

- この標準図は、鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート構造の鉄筋工事に適用する。
- 設計図書、特記仕様書に記載してある事項以外は、この標準図による。この標準図に、記載されていない事項は、「公共建築工事標準仕様書」による。
- 使用する鉄筋、及び溶接金網は、特記による。
この標準図は、表 1. 1 に示す鉄筋および溶接金網に適用する。
これ以外は特記による。

表 1. 1

規格番号	規格名称	種類の記号
J I S G 3 1 1 2	鉄筋コンクリート用棒鋼	S R 2 3 5 , S R 2 9 5 S D 2 9 5 A , S D 2 9 5 B S D 3 4 5 , S D 3 9 0
J I S G 3 5 5 1	溶接金網	

B. 凡例

- d ・ ・ 鉄筋の直径（異形鉄筋では呼び名に用いた数値、丸鋼では径）
- h o ・ ・ 部材の内法高さ
- l o ・ ・ 部材の内法寸法
- r ・ ・ 半径
- @ ・ ・ 間隔
- ☒ ・ ・ 中心線

C. 鉄筋の表示

- 鉄筋の表示記号は、表 1. 2 による。

表 1. 2

表 示 記 号		・	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎
鉄筋径	異形鉄筋	D 1 0	D 1 3	D 1 6	D 1 9	D 2 2	D 2 5	D 2 9	D 3 2
	丸 鋼	9 ϕ	1 3 ϕ	1 6 ϕ	1 9 ϕ	2 2 ϕ	2 5 ϕ	2 9 ϕ	3 2 ϕ

- 上記の表示記号を使用しない場合は特記による。
- 上記の表示記号は、この配筋標準図には適用しない。

2. 鉄筋の加工・組立て

A. 加工・組立て

- 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。
- 有害な曲がり、又は損傷等のある鉄筋は、使用しない。
- 鉄筋の切断は、シャークッター等によって行う。ただし、現場でやむを得ない場合は、ガス切断とすることができる。
- 鉄筋には点付け溶接を行わない。また、アークストライクを起こしてはならない。
- 鉄筋の組立は、鉄筋の交差部および継手部の要所を径 0. 8 mm 以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、うま、吊り金物等を使用して行う。
尚、スペーサーは転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーには、原則として鋼製スペーサーで、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものを使用する。
- 前に打設したコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋を急に曲げる事無く、できるだけ長い距離で修正する。
- 設備配管、スイッチ等の設置により、設計図書に定める配筋が困難な場合は、設計者及び監督職員と協議する。

B. 末端部のフック

- 次の場合、鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- 丸鋼
- 異形鉄筋
 - 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。（図 2. 1 の ● 印で示す鉄筋）
 - 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両側にある場合。（図 2. 1 の ● 印で示す鉄筋 但し基礎梁を除く）
 - 煙突の鉄筋。（壁の一部となる場合を含む）
 - 杭基礎のベース筋。
 - 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

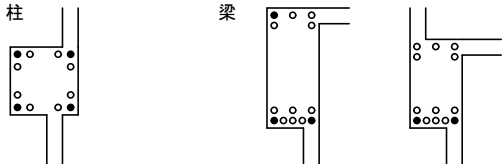


図 2. 1

C. 折曲げ

- 鉄筋の折り曲げは、表 2. 1 及び表 2. 2 による。

表 2. 1 鉄筋の折曲げ（末端部）

折曲げ 角 度	折曲げ図	S D 2 9 5 A、 S D 2 9 5 B S D 3 4 5			使用箇所
		D 1 6 以下	D 1 9 ~ D 3 8	D 1 9 ~ D 3 8	
1 8 0 °		D 3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D 1 6 以上の鉄筋
1 3 5 °		D 3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋 D 1 3 以下の鉄筋
9 0 °		D 3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	T 形及び L 形の 梁のあばら筋
1 3 5 ° 及び 9 0 °		D 3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	幅止め筋

（注） ・ D は、曲げ内法直径を示す。

表 2. 2 鉄筋の折曲げ（中間部）

折曲げ 角 度	折曲げ図	S D 2 9 5 A、S D 2 9 5 B S D 3 4 5、S D 3 9 0			使用箇所
		D 1 6 以下	D 1 9 ~ D 2 5	D 2 9 ~ D 3 8	
9 0 ° 以下		D 3 d 以上	4 d 以上	――	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
		D 4 d 以上	6 D 以上	8 D 以上	その他の鉄筋

（注） ・ D は、曲げ内法直径を示す。

3. 鉄筋の継手・定着

A. 鉄筋の継手及び定着長さ

- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（建築基準法施行令第 7 3 条 5 項の規定に適合するもの。）とし、適用は特記による。特記がなければ、鉄筋の種類に応じた継手工法は、表 3. 1 による。

表 3. 1 鉄筋の種類に応じた継手工法

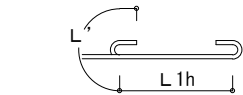
種類の記号	適用径の範囲	
	重ね継手	ガス圧接継手
S D 2 9 5 A	D 1 6 以下	――
S D 2 9 5 B S D 3 4 5 S D 3 9 0	原則として、D 1 6 以下とする。 ただし、基礎、耐圧版、土圧を受ける壁等の大断面部材の場合は、D 2 5 以下とする。また、場所打ちコンクリート杭の場合は、D 3 2 以下とする。	D 1 9 以上

- 重ね継手および定着の長さは、表 3. 2 による。
但し、柱に取り付ける梁の引っ張り鉄筋の定着長さは、特記による。
特記が無ければ、40d と表 3. 2 の定着長さのうち大きい値とする。

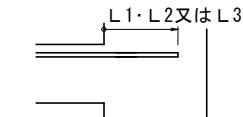
表 3. 2 鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	フック無し				フック付き			
		L ₁	L ₂	L ₃		L _{1h}	L _{2h}	L _{3h}	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
S D 2 9 5 A S D 2 9 5 B	1 8	4 5 d	4 0 d	2 0 d	1 0 d かつ 150mm 以上	3 5 d	3 0 d	1 0 d	――
	2 1	4 0 d	3 5 d			3 0 d	2 5 d		
	2 4 2 7	3 5 d	3 0 d			2 5 d	2 0 d		
	3 0 3 3 3 6	3 5 d	3 0 d			2 5 d	2 0 d		
S D 3 4 5	1 8	5 0 d	4 0 d			3 5 d	3 0 d		
	2 1	4 5 d	3 5 d			3 0 d	2 5 d		
	2 4 2 7	4 0 d	3 5 d			3 0 d	2 5 d		
	3 0 3 3 3 6	3 5 d	3 0 d			2 5 d	2 0 d		
S D 3 9 0	2 1	5 0 d	4 0 d			3 5 d	3 0 d		
	2 4 2 7	4 5 d	4 0 d			3 5 d	3 0 d		
	3 0 3 3 3 6	4 0 d	3 5 d			3 0 d	2 5 d		

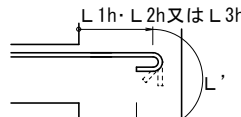
- （注）
- L₁・L_{1h}：重ね継手及び 2. 以外の定着長さ。
 - L₂・L_{2h}：割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。
 - L₃：小梁及びスラブの下端筋の定着長さ。ただし、基礎耐圧版、これを受ける小梁は除く。
 - L_{3h}：小梁下端筋のフック付き定着長さ。
 - フック付きの場合の重ね継手及び定着長さは、図の様にフック部分 L' を含まない。



フック付きの場合の重ね継手の長さ



フック無し



フック付き

直線定着

鉄筋コンクリート構造配筋標準図〔2〕

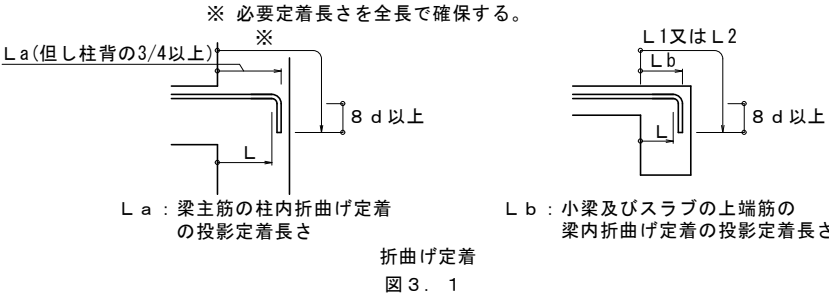


表 3. 3 投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F c (N/mm ²)	L a	L b
S D 2 9 5 A S D 2 9 5 B	1 8	2 0 d	1 5 d
	2 1	1 5 d	1 5 d
	2 4 2 7	1 5 d	1 5 d
	3 0 3 3 3 6	1 5 d	1 5 d
S D 3 4 5	1 8	2 0 d	2 0 d
	2 1	2 0 d	2 0 d
	2 4 2 7	2 0 d	1 5 d
	3 0 3 3 3 6	1 5 d	1 5 d
S D 3 9 0	2 1	2 0 d	2 0 d
	2 4 2 7	2 0 d	2 0 d
	3 0 3 3 3 6	2 0 d	1 5 d

- (注) 1. L a : 梁主筋の柱内折曲げ投影定着長さ。
(基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む)
2. L b : 小梁及びスラブ上端筋の梁内折曲げ投影定着長さ。
(片持小梁及び片持スラブを除く)

B. 隣合う継手の位置

1. 隣合う継手の位置は、表 3. 3 による、ただし、スラブ及び壁の場合で D 1 6 以下は除く。なお、先組み工法等で、柱・梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表 3. 3 隣合う継手の位置

フックのある場合		
フックのない場合		
圧接継手		機械式継手

C. 溶接金網の継手及び定着

1. 溶接金網の継手及び定着は、図 3. 2 による。

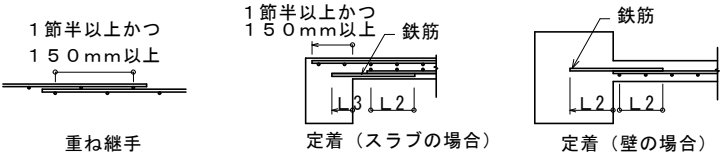


図 3. 2

4. 鉄筋のかぶり厚さ及びあき

A. 鉄筋のかぶり厚さ

1. 設計かぶり厚さは、特記による。但しその値は、表 4. 1 に示す値以上とする。特記が無い場合は、表 4. 1 に示す値とする。但し、柱及び梁の主筋に D 2 9 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の 1. 5 倍以上として最小かぶり厚さを定める。

表 4. 1 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

構造部分の種類				設計かぶり 厚さ	最小かぶり 厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁 以外の壁	仕上げあり		3 0	2 0
		仕上げなし		4 0	3 0
	柱、梁、 耐力壁	屋内	仕上げあり	4 0	3 0
			仕上げなし	4 0	3 0
		屋外	仕上げあり	4 0	3 0
			仕上げなし	5 0	4 0
	擁壁、耐圧スラブ			5 0	4 0
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			* 5 0	* 4 0
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			* 7 0	* 6 0
煙突等の高熱を受ける部分				7 0	6 0

- (注) ・ * 印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
- ・ 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上げ塗装、吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
- ・ スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。
- ・ 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
- ・ ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。
- ・ 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは表 4. 1 による。
- ・ 塩害を受ける恐れのある部分等、耐久上不利な箇所には、表 4. 1 を適用しない。

B. 鉄筋の相互のあき

1. 鉄筋相互のあきは図 4. 1 により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合は、特記による。
- (1) 粗骨材の最大寸法の 1. 2 5 倍
- (2) 2 5 mm
- (3) 鉄筋の径 (呼名に用いた数値 d) の 1. 5 倍



図 4. 1

2. 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄筋とのあきは 1. による。

C. 鉄筋の保護

1. 鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置きわたり、直接鉄筋の上を歩かないようにする。
2. コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。特にかぶり厚さ及び間隔の保持に努める。

5. 基礎・基礎梁

A. 直接基礎

1. 直接基礎の配筋は、図 5. 1 及び、図 5. 2 による。

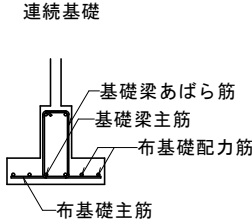
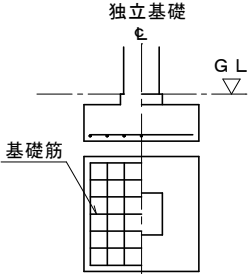
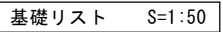
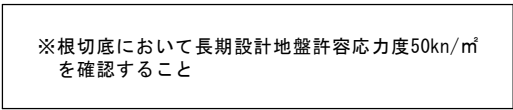


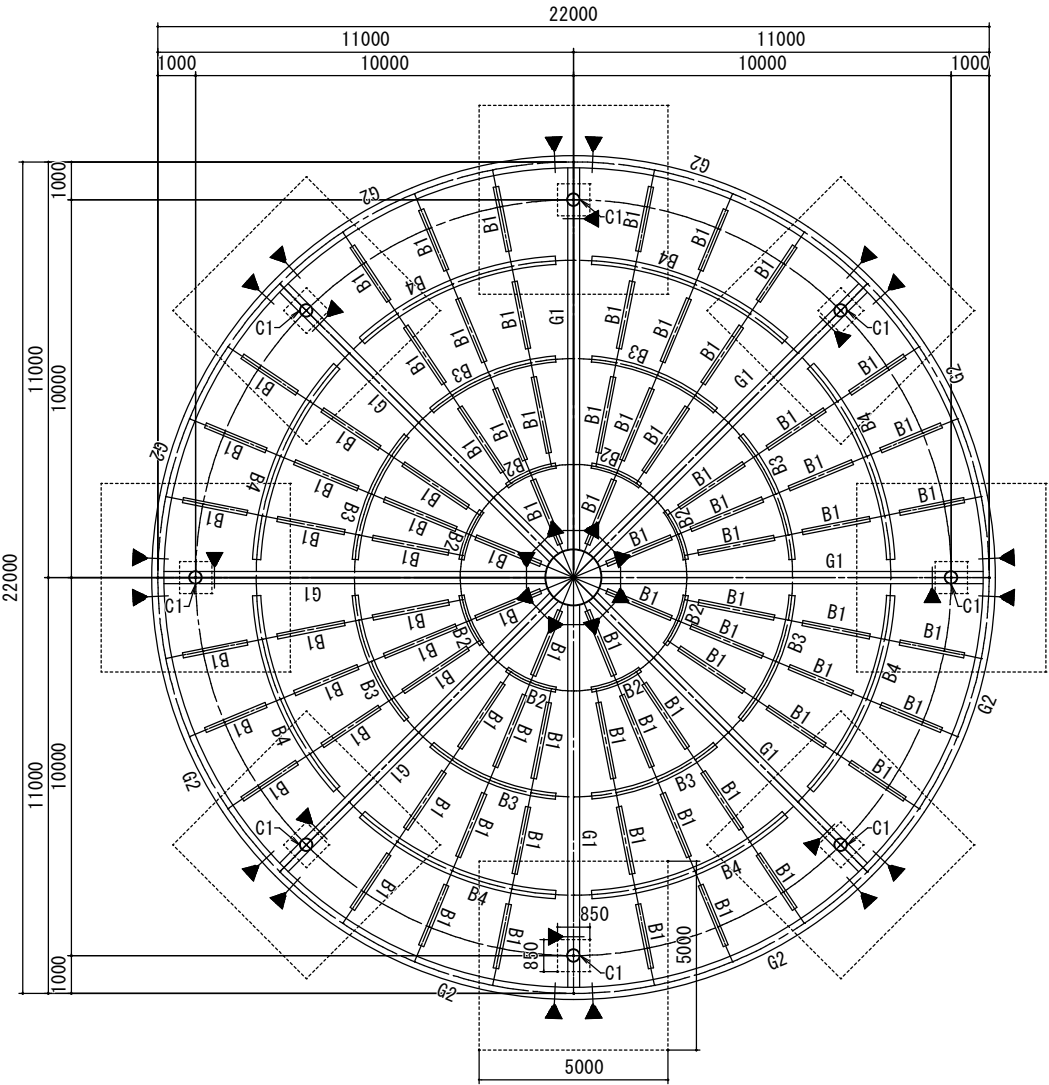
図 5. 2



膜材リスト

膜材料	AP-450	認定番号	MMEM-0081-1
	酸化チタン光触媒微粒子含有（両面）	不燃認定	NM-4723

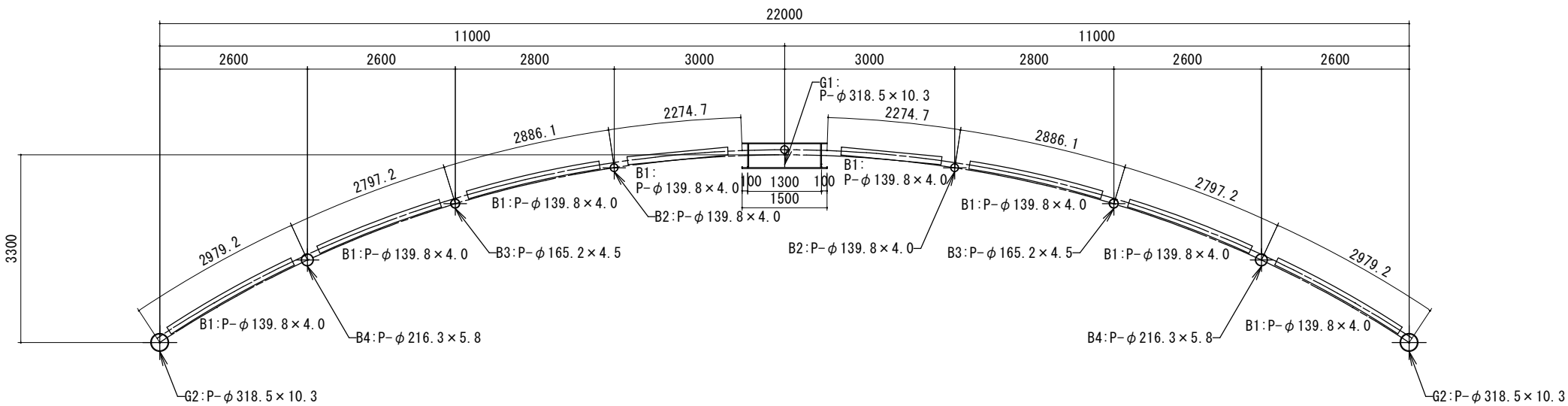
- ※膜構造建築物の品質管理については、令和５年発効「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜構造建築物品質管理規定」に従い行うこと。
- ※膜材料は令和５年発行「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜材料等品質基準」に合致するものであること。
- ※膜体加工は一般社団法人日本膜構造協会の膜体加工工場登録制度により、膜構造に係る高度な加工技術及び高度な品質管理能力を有する膜体加工認定工場として認定を受け、同協会の（膜体加工工場認定簿（上級グレード））に記載された工場（A種膜材料）の品質管理体制で行うこと。
- ※膜体加工は令和５年発行「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準」に記載する「膜体加工指針（膜材料・テント倉庫膜材料）」に従い行うこと。
- ※膜材料を製品使用後に引き取り、リサイクルされる仕組みを整えていること。
- ※酸化チタン光触媒の効果は、光触媒工業会のPIAJ認証マーク取得商品、または同等以上の性能を有すること。



小屋伏図 S=1:100

▶ 印は現場ジョイント位置を示す。

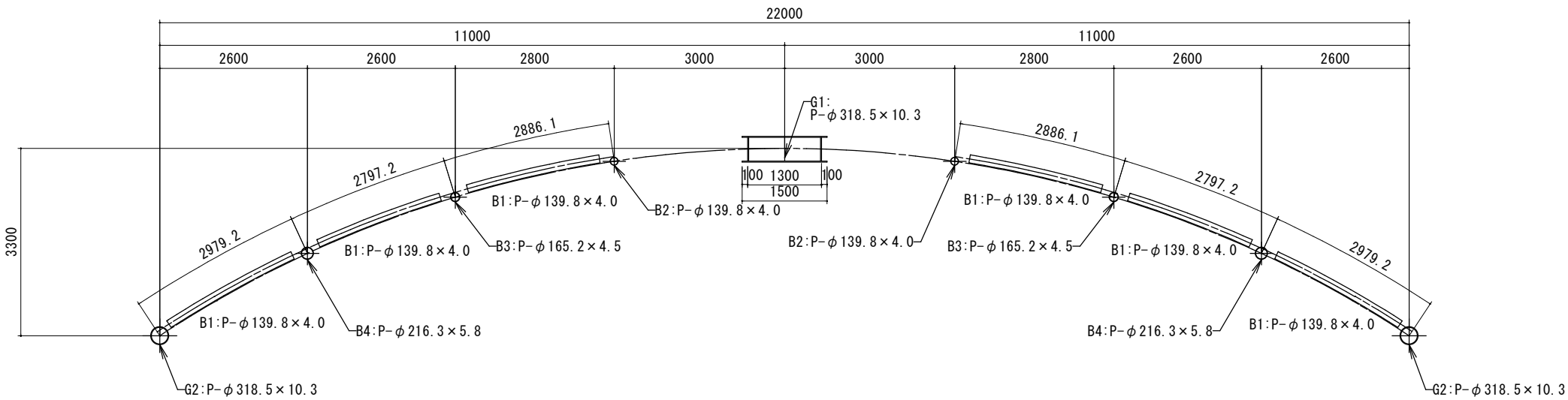
※現場ジョイント位置は施工設計時に再検討すること。



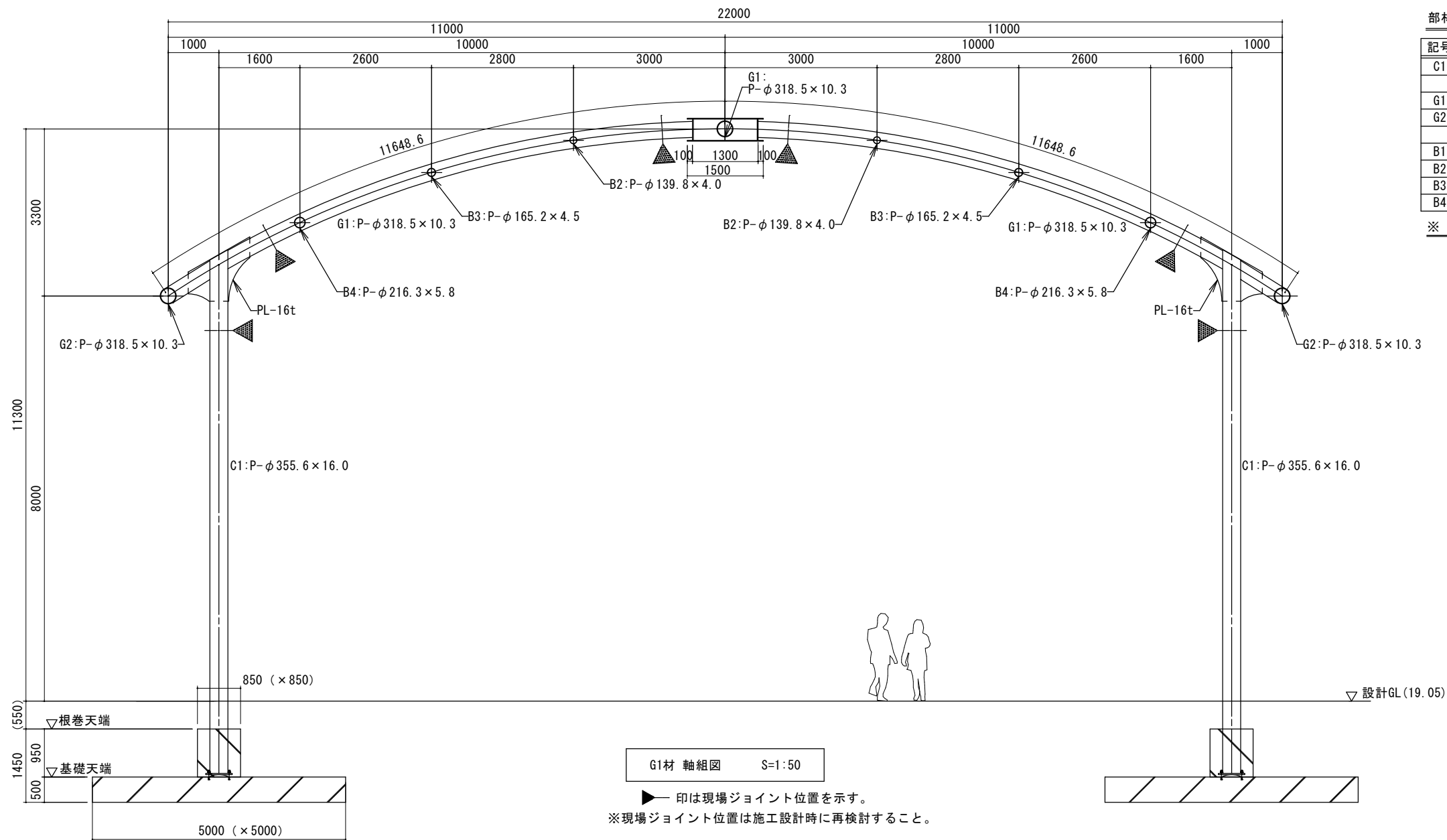
部材リスト

記号	部 材	備 考
C1	P-φ 355.6×16.0	STK490
G1	P-φ 318.5×10.3	STK490
G2	P-φ 318.5×10.3	STK490
B1	P-φ 139.8×4.0	STK400
B2	P-φ 139.8×4.0	STK400
B3	P-φ 165.2×4.5	STK400
B4	P-φ 216.3×5.8	STK400

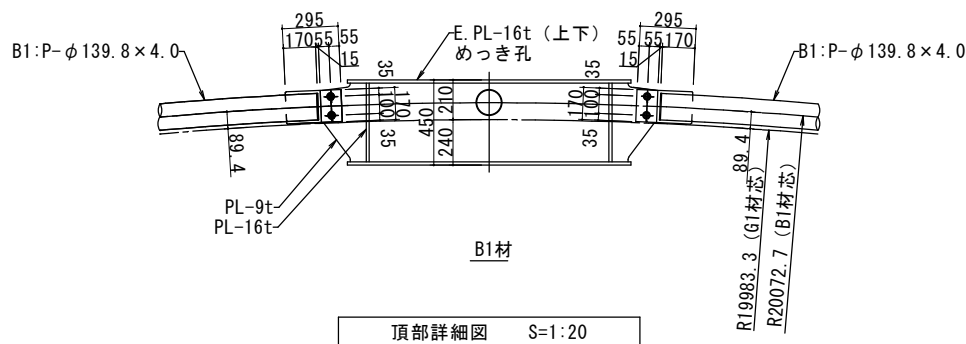
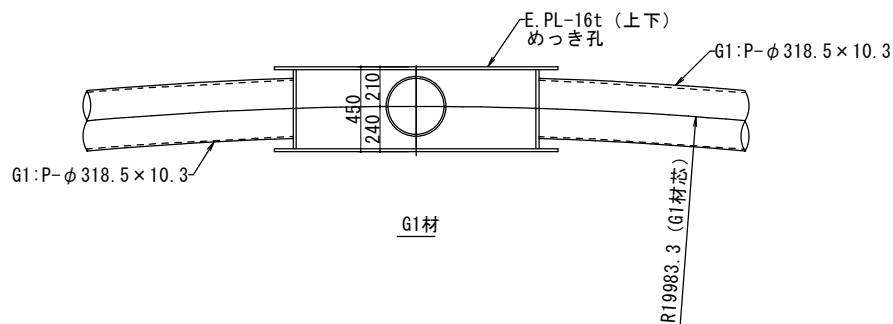
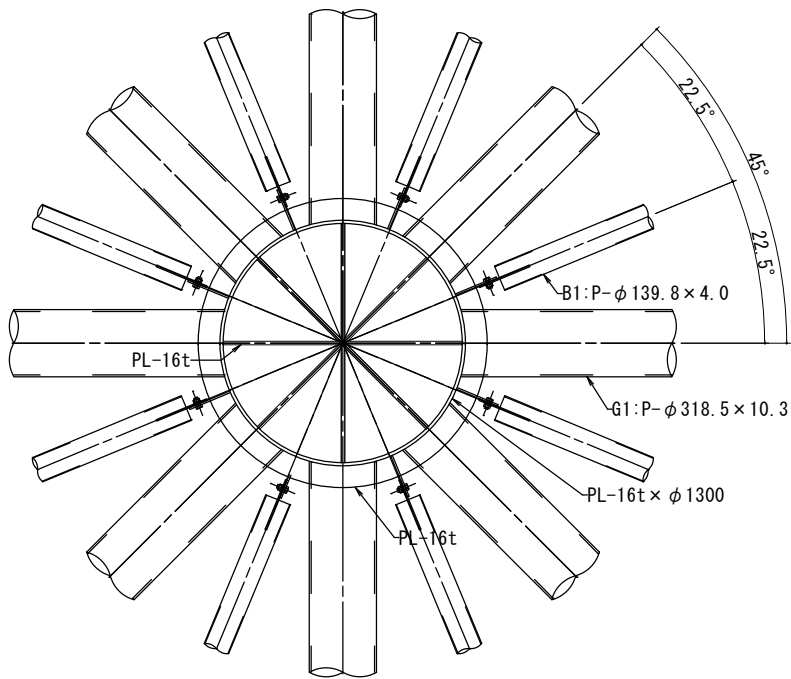
※ 適宜部材にメッキ穴を設ける



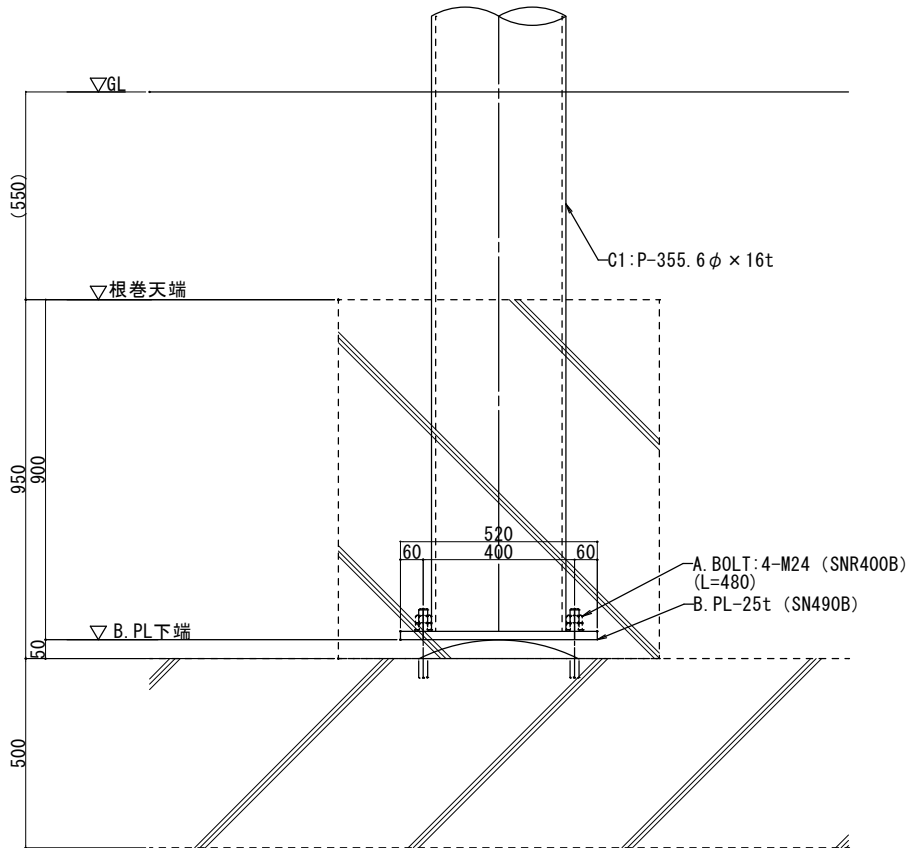
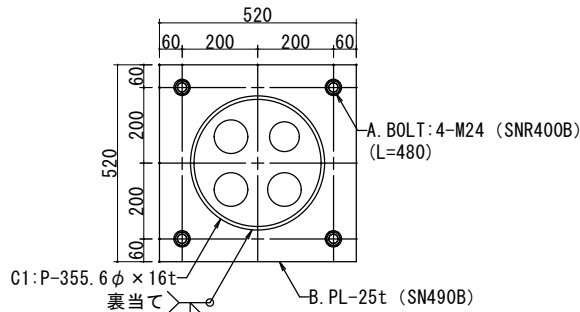
B1材 軸組図 S=1:50



部材リスト		
記号	部 材	備 考
C1	P-φ 355.6 × 16.0	STK490
G1	P-φ 318.5 × 10.3	STK490
G2	P-φ 318.5 × 10.3	STK490
B1	P-φ 139.8 × 4.0	STK400
B2	P-φ 139.8 × 4.0	STK400
B3	P-φ 165.2 × 4.5	STK400
B4	P-φ 216.3 × 5.8	STK400
※ 適宜部材にメッキ穴を設ける		

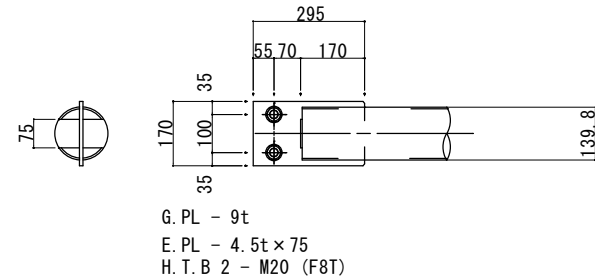


頂部詳細図 S=1:20

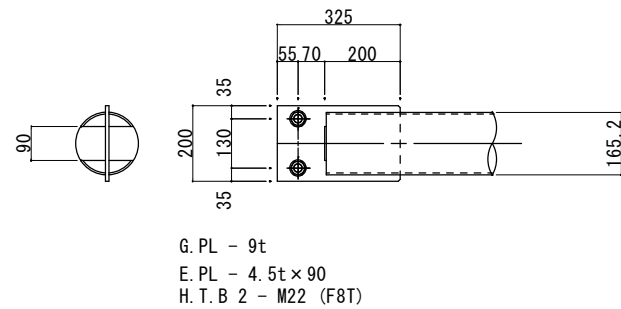


主筋: 16-D22	SD345
トップフープ: 2-D13	SD295A
フープ筋: D13 @100	SD295A
ハカマ筋: D16 @200	SD295A
ベース筋: D16 @200	SD295A

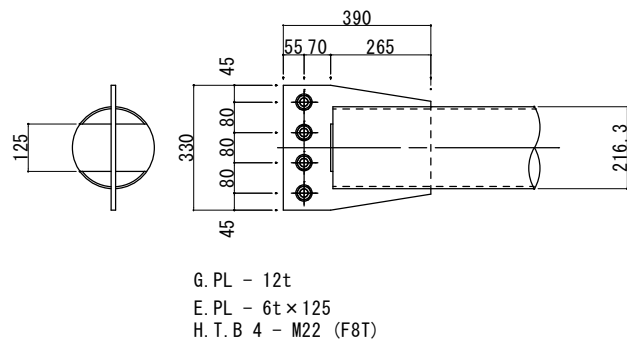
柱脚詳細図 S=1:10



B1, B2材 端部詳細図 S=1:10



B3材 端部詳細図 S=1:10



B4材 端部詳細図 S=1:10

※メッキ穴の位置及びサイズは施工設計時に再検討すること。

